

## 都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：平成 21 年第 I 四半期（1 月～3 月）

**設備投資：6 期連続の減少。来期も慎重な姿勢続く**

**採算状況：5 期連続の悪化**

**資金繰り：5 期連続の悪化。特に製造業、卸売業の悪化続く**

**雇用人員：すべての業種で「過剰」が上回る**

### 《 概要 》

**設備投資：**当期（平成 21 年 1 月～3 月）に設備投資を「実施した」割合は 17.0%であった。前期（平成 20 年 10 月～12 月）の 18.7%に比べ、1.7 ポイント減少した。設備投資を「実施した」割合は、平成 19 年第Ⅲ四半期（7 月～9 月）の 21.7%から 6 期連続の減少となった。来期（平成 21 年 4 月～6 月）の設備投資の「実施予定」は 16.0%であり、当期実績に対し 1.0 ポイント減少と、設備投資に慎重な姿勢が引き続いている。

**採算状況：**当期の採算状況を採算 DI（「黒字」－「赤字」）で見ると、全体では -40.3 と前期（-33.7）に比べ 6.6 ポイント減少し、平成 19 年第Ⅳ四半期（-5.9）以降の 5 期連続で急速に悪化している。

**資金繰り：**当期の資金繰り状況を資金繰り DI（「楽」－「苦しい」）で見ると、当期は -39.9 と前期（-37.7）に比べ 2.2 ポイント減少し、5 期連続で悪化した。業種別では、製造業（-41.2）は 6 期連続で悪化、卸売業（-37.1）も 5 期連続で悪化した。

**雇用人員：**当期の雇用状況を雇用人員 DI（「不足」－「過剰」）で見ると、全体では -15.5（前期 -10.4、前々期 +2.7）と大幅な悪化が続いている。業種別ではすべての業種で過剰が上回った。

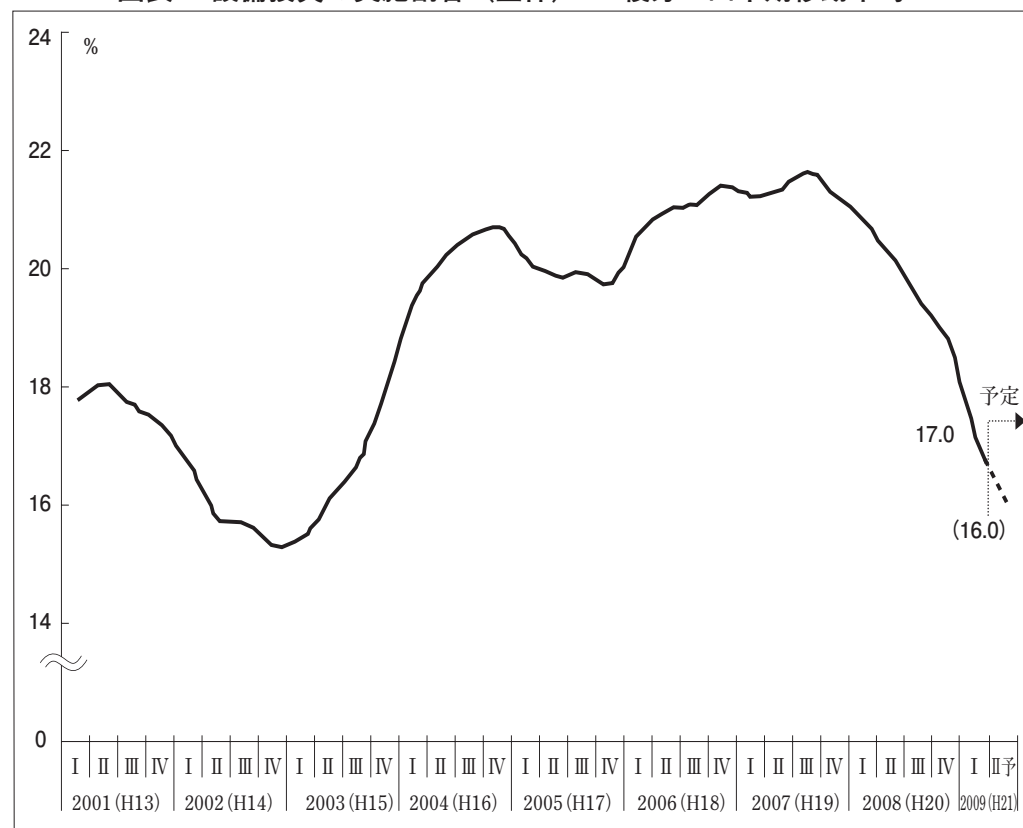
## ■設備投資■

### <全体>

設備投資の動向を後方 4 四半期移動平均で見ると、当期（平成 21 年 1 月～3 月）に設備投資を「実施した」割合は 17.0%であった。前期（平成 20 年 10 月～12 月）の 18.7%に比べ、1.7 ポイント減少した。設備投資を「実施した」割合は、平成 19 年第Ⅲ四半期（7 月～9 月）の 21.7%から 6 期連続の減少となった。この 6 期連続の減少は、平成 13 年第Ⅲ四半期以降の 6 期連続（17.7%→15.4%）の減少以来であり、当時と比べ今回の落ち込み幅は大きい。

来期（平成 21 年 4 月～6 月）の設備投資の「実施予定」は 16.0%であり、当期実績に対し 1.0 ポイント減少と、設備投資に慎重な姿勢が引き続いている。

図表 1 設備投資の実施割合（全体） —後方 4 四半期移動平均—



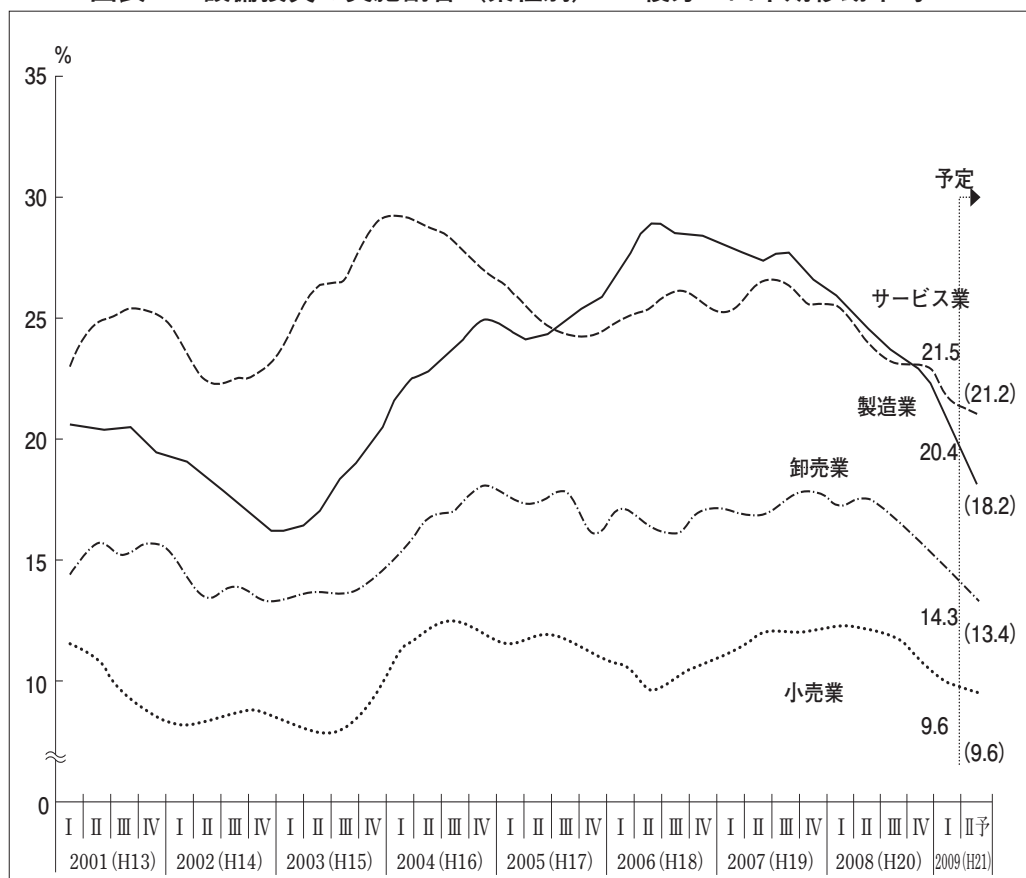
<注> 「2009 Ⅱ 予」は設備投資の予定

## <業種別>

当期に設備投資を「実施した」割合を業種別にみると、平成20年第Ⅲ四半期以降の3期連続で、すべての業種が減少となった。なかでも、製造業では20.4%（前期22.7%）と2.3ポイント減少し、6期連続の減少となった。小売業は前期10.7%から1.1ポイント減少し、9.6%と1割を下回った。

来期（平成21年4～6月）の設備投資の「実施予定」は、小売業で9.6%（当期実施9.6%）と横ばいであるが、他の3業種は当期「実施した」より減少しており、なかでも製造業は18.2%（当期実施20.4%）より2.2ポイント減少しており、7期連続の減少が懸念される。

図表2 設備投資の実施割合（業種別） —後方4四半期移動平均—

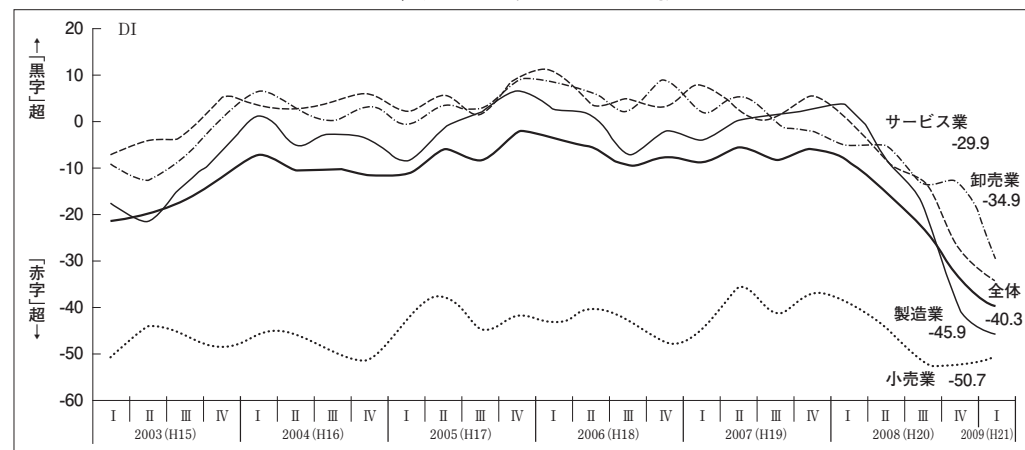


<注>「2009 II 予」は設備投資の予定

## ■採算状況■

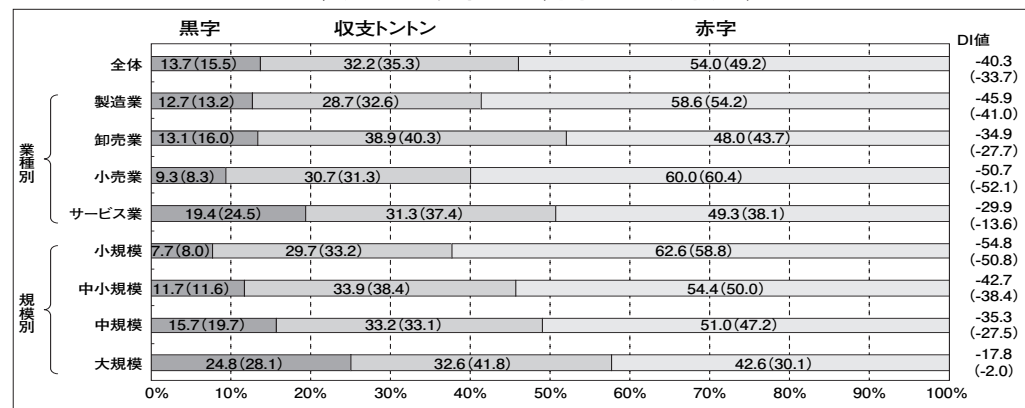
当期の採算状況を採算DI（「黒字」-「赤字」）でみると、全体では-40.3と前期（-33.7）に比べ6.6ポイント減少し、平成19年第Ⅳ四半期（-5.9）以降の5期連続で急速に悪化している。

図表3 採算DIの推移



業種別の採算DIは小売業のみ-50.7（前期-52.1）とやや改善しているが、他の3業種は悪化している。なかでも、サービス業-29.9（同13.6）が16.3ポイントと大きく悪化している。規模別にみると、前期マイナスに転じた大規模が-17.8（前期-2.0、前々期+19.4）と急速に悪化している。

図表4 採算状況（業種別・規模別）

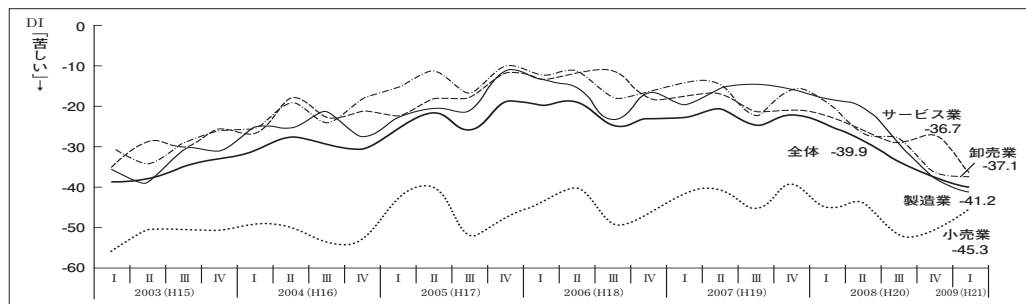


<注>カッコ内は前期（20年10～12月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある

## ■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」-「苦しい」）で見ると、当期は-39.9と前期（-37.7）に比べ2.2ポイント減少し、平成19年第Ⅳ四半期（-21.8）以降、5期連続で悪化している。

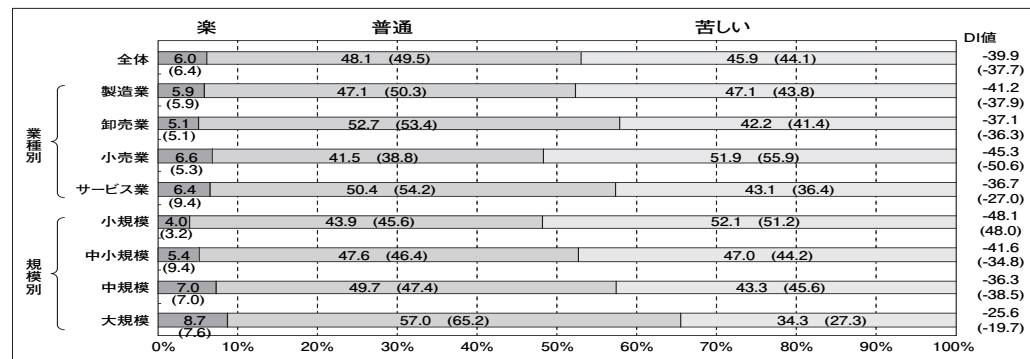
図表5 資金繰りDIの推移



業種別に資金繰りDIをみると、製造業は-41.2と前期-37.9より3.3ポイント悪化。6期連続で悪化しており、平成14年第Ⅲ四半期の-42.8に迫っている。また、卸売業も-37.1と5期連続で悪化しており、製造業と同様に平成14年第Ⅲ四半期の-37.8に迫っている。小売業は-45.3と前期-50.6より5.3ポイント改善し、前期に引き続き良くなっているが、唯一「苦しい」が依然として過半数を占め、業種別において最も厳しい水準にある。

規模別資金繰りDIをみると、大規模が-25.6と5期連続で悪化としており、その減少幅も直近3期で22.2ポイント減少と急速に悪化している。

図表6 資金繰り状況（業種別・規模別）

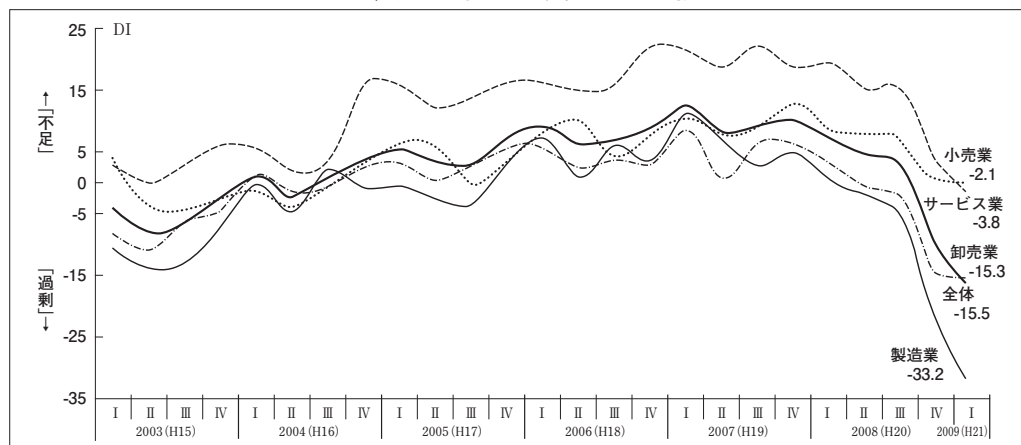


<注>カッコ内は前期（20年10～12月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある

## ■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」-「過剰」）で見ると、全体では-15.5と（前期-10.4、前々期+2.7）と大幅な悪化が続いている。

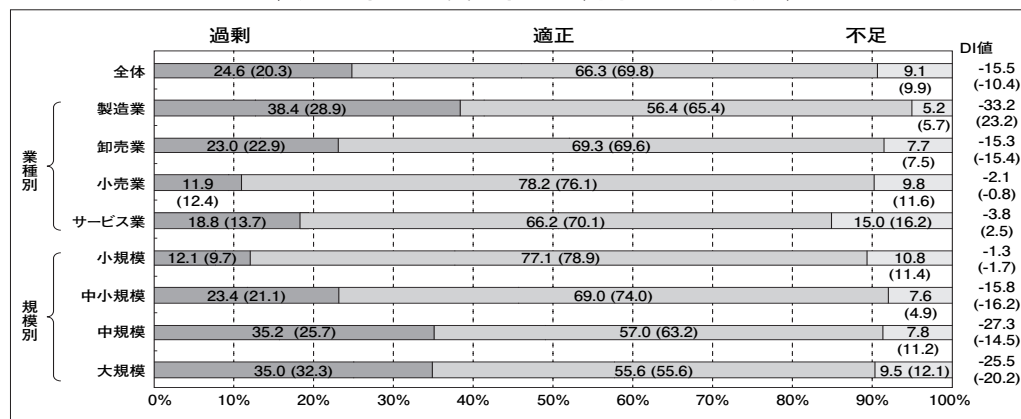
図表7 雇用人員DIの推移



業種別に雇用人員DIをみると、製造業-33.2（前期-23.2、前々期-5.7）と「過剰」への傾斜が続いている。また前期、唯一プラス水準を維持していたサービス業も当期は-3.8とマイナスに転じ、すべての業種で「過剰」が上回った。

規模別にみると、中規模において-27.3（前期-14.5）と大幅な「過剰」が目立っている。

図表8 雇用人員の状況（業種別・規模別）



<注>カッコ内は前期（20年10～12月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある